

異なり
あつた

と云帳より郡代中山玄菟とあり城代
中山玄菟の謬もや、伝正曰是天正十二年
より同十三年頃の事之又大梵寺の城代
より山玄よりお表後前をきいたい、伝正
曰水城軍侯より天正九年^{十一年の}中庄重長り
二男千勝を以て大室寺義興^興の忠子とに
といふた義興^興の忠子出生をにより千勝を
居さんとせし重長懐りて合戦よりひに
義興^興ハ山玄上義光より加勢を請て拒み重長ハ
尾部長門より中条城前荒川より頼昌川後前

赤を請ひい居月へお入て終は戦後子孫を
入部さを大室寺義興と名ふりとあり又
居月お後より中山玄菟をきい^{居月}仕ををり
いむといふの文後よりくて義興治く
これを義興の文文が居城前重長を懐り
佐後値中と^赤あり合又居月を居居さんと戦
後勢を信い居月より攻入とありいり義光
ハ子の勢より尾浦へ加勢い居月勢合て一
百八十城後赤の保者此處又ハ温海村赤の
所々に砦を築へ柵を付て取口の款を防り